

遺伝性腫瘍相談外来のご案内

ご家族やご親戚に、がんになったことがある人が多く、「がん家系なのかしら？」と不安になったことはありませんか？

胃がん、大腸がん、肺がん、子宮がん、卵巣がん、乳がん、肝臓がん、膵臓がん、前立腺がんなど、いろいろながんの人がご家族にいらっしゃる場合と、「乳がんと卵巣がん」あるいは、「大腸がんと子宮体がん」など、ある組み合わせが多く認められる場合があります。また、がんの多くは、加齢とともに発生しやすくなるのですが、まだ若いうちにご家族やご親戚に複数人いらっしゃる場合があります。

このような場合には、がんの発生・発症に遺伝が関係している可能性があります。遺伝、あるいは、遺伝子、というと、とても難しいことで、こういうことには関わりたくないという方もいらっしゃいます。そのようなお考え、お気持ちもとてもよくわかります。

でも、もう少し詳しく、遺伝のこと、遺伝子を知ること、ご本人、ご兄弟、ご両親、お子様、お孫様、ご親戚みなさまが、がんになる可能性が通常よりも高いのか低いのかを知って、実際にがんにかかるまえに、できる対策、できる健康管理がある場合があります。

遺伝性腫瘍相談外来では、「がんが遺伝によるかもしれない」「家族にがんが多いようだ、どうしよう」という不安をかかえている方のお話、お気持ちをうかがい、将来に向かってできる対策（検診・検査・治療方法など）について、いっしょに考え、みなさまの健康管理をサポートできたらと考えています。乳がんや卵巣がんについて心配をかかえているみなさまといっしょに家族歴を確認し、家族性あるいは遺伝性の可能性を予測し、ご本人ご家族にメリットがあると判断した場合には、遺伝学的検査を目的とした採血を実施する場合があります。

初回は、1時間じっくりと時間をかけて、ご本人のこと、ご家族のこと、ご病気のこと、心配なこと、困っていること、など、お話をうかがい、将来の相談を始めます。2回目以降も、必要に応じて、30分あるいは60分、時間をかけて、方針の相談、これから行う検査の説明、実際に行った検査の結果説明を行います。必要に応じて、3か月後、6か月後、1年後、と、ご本人とご家族みなさまの様子をフォローアップさせていただきます。

お一人で相談に来ていただいても、ご家族、親しいご友人と一緒に来ていただいても大丈夫です。お話をうかがって、よりふさわしい専門施設での相談が必要な場合には、適宜対応いたします。

担当医： 田辺 真彦

日本人類遺伝学会・日本カウンセリング学会 臨床遺伝専門医

日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科 非常勤講師

(院外からの方は紹介状を持参ください)

注意) 自費診療になりますので必ず料金を事前にご確認ください

遺伝性乳がん卵巣がん症候群についての情報は下記をお勧めしております。

日本 HBOC コンソーシアムのリンク <http://hbc.jp/public/index.html>

FALCO 社のリンク <http://www.hbc.info/>